

平成 28 年度 第 1 回 稲城市海外姉妹都市検討市民会議 作業部会
議事録 【要点記録】

【開催日時】平成 28 年 7 月 28 日（木） 午後 7 時から 9 時

【会 場】地域振興プラザ 2 階 商工会会議室

【出席者】■委員；出席者 7 人

- ・ 稲城市農業委員会（松本 一宏氏）
- ・ 稲城市体育協会（中家 敬士氏）
- ・ 稲城市教育委員会（城所 正彦氏）
- ・ 稲城市青少年育成地区委員会正副委員長会（石橋 良生氏）
- ・ 稲城国際交流の会（藤田 佑二氏）
- ・ 公募市民（原 忠男氏）
- ・ 公募市民（小山 良夫氏）

■行政

- ・ 事務局 4 人（企画部長（武藤 路弘）、企画政策課長（柴田 光洋）、
企画政策課計画調整担当係長（井田 聡）、企画政策課主事（新津 伸偉）

【開会】

井田係長：本日はお忙しい中、また、夜分遅くにお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、平成 28 年度第 1 回稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会を開催いたします。

本日、部会長が決まるまでの司会を務めさせていただきます、企画政策課計画調整担当係長の井田と申します。どうぞよろしく願いいたします。

なお、本部会は、原則公開でありますので、傍聴の方がいらっしゃることをお知らせいたします。

まずはじめに、配布資料の確認をさせていただきます。本日お手元に配布しておりますものは、7 点になります。

①座席表

②次第

③資料 1：平成 28 年度 稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会 名簿

④資料 2：稲城市海外姉妹都市検討市民会議設置要綱

⑤資料 3：稲城市民の海外転出入状況及び在住外国人について

⑥資料 4：平成 27 年度稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議

「主な意見の分類」

⑦資料 5：稲城市の海外交流実績及び各都市の概要等

こちらは、委員の方も、傍聴されている方も同じ資料をお配りしております。過不足等はありませんでしょうか。

【次第1】稲城市海外姉妹都市検討市民会議設置要綱の一部改正について

井田係長：それでは、次第1『稲城市海外姉妹都市検討市民会議設置要綱の一部改正について』。
企画政策課長よりご説明をいたします。

柴田課長：それでは、私の方から、ご説明差し上げます。資料2をご覧ください。こちらは、本作業部会を設置するために、市民会議の設置要綱の一部改正を行ったものになります。

第7条をご覧ください。作業部会についての規定を新規に追加しています。また、報償金、会議録の作成、会議の公開や傍聴の手続きなどの規定につきましても、市民会議と同様の内容が作業部会にも適用されるように修正を加えています。

井田係長：何かご質問はありますか。

<質疑なし>

【次第2】部会長の選出について

井田係長：続きまして、次第の2『部会長の選出について』。本作業部会の部会長は、設置要綱第7条第3項の規定により、委員の互選により選出いたします。どなたか、ご推薦いただける方はいらっしゃいますでしょうか。

委員：昨年度の友好都市提携検討市民会議のときから委員を務められている中家委員がよろしいのではないのでしょうか。

井田係長：ただ今、中家委員を部会長に推薦するご意見をいただきました。皆様、いかがでしょうか。よろしければ拍手をお願いいたします。

<拍手全員>

井田係長：ありがとうございます。部会長は中家様をお願いしたいと思います。それでは、中家部会長は、部会長席へご移動をお願いいたします。

<中家部会長が部会長席へ移動>

部会長：それでは、改めましてこんばんは。部会長という大任を任されました。是非皆様のご協力をいただき、市民会議の全体会へ、きちんとした回答ができるように、議事を進めて行きたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

井田係長：ありがとうございます。それでは、これより先の議事の進行については、中家部会長にお願いをいたします。

【議題1】交流事業及び候補地について

部会長：それでは、議題1『交流事業及び候補地について』。事務局より説明をお願いします。

柴田課長：それでは、まずはじめに、資料3『稲城市民の海外転出入状況及び在住外国人について』をご覧ください。こちらは、先日の第1回の市民会議において、ご意見をいただきました、稲城市民のネットワークについての資料になります。

〔資料3『稲城市民の海外転出入状況及び在住外国人について』に基づいて説明〕

引き続きまして資料4『平成27年度稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議「主な意見の分類」』のご説明をいたします。平成27年度の市民会議につきましては、4回の会議を開

いており、その中で、皆様から様々なご意見をいただいております。今回、事務局の方で、皆様からいただいたご意見を分類し、整理してこの表にまとめています。

〔資料4『平成27年度稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議「主な意見の分類」』に基づいて説明〕

次に資料5『稲城市の海外交流実績及び各都市の概要等』の説明に移らせていただきます。先ほどの資料4の過去の交流実績やきっかけのあるところという部分のご意見を中心に、今まで稲城市と交流のあった主な町についてまとめ、移動時間が少ない順に並べた資料になります。

〔資料5『稲城市の海外交流実績及び各都市の概要等』に基づいて説明〕

部会長：説明が終わりました。今、いろいろと資料が出てきてまいりました。これからは、交流事業や候補地について、ある程度絞り込んでいきたいと思っております。まず、交流事業として、どの分野が最適であるかということですが、資料4の左の方の交流事業を見ますと、特に青少年についての交流という意見がかなり多く出ておりますので、その辺を踏まえながら絞り込んでいったらいいのかと思っております。どなたか、ご意見をいただけますでしょうか。

この資料4を見ますと、特に国際グローバル化という中で、青少年の健全育成、それから候補地につきましては、特に英語圏の方が良いというご意見がかなり多くなっています。そういう中で、どのような分野の交流が最適かという部分で、皆様のご意見はいかがでしょうか。

委員：資料を用意しましたので、配布させていただきます。

<藤田委員の資料を配布>

委員：過去4回の市民会議での検討内容は資料4でだいたい網羅されていると思います。しかし、今後、どういうところに力を入れて姉妹都市交流を検討したらいいかの提案として、私から資料を配らせていただきました。1枚目にあります、稲城市としての売りは何か、また、姉妹都市提携を通じて、稲城市として何が欲しいか、そういった議論をもう一回改めてした方が良くと思います。資料5は、交流実績があるところを中心にリストアップしていますが、昨年4回目の会議のときに、もう一回振り出しに戻して、他の所はないのかということについて、話をした方が良くという話をしました。実際に、稲城としては、どういう売りがあって、どういう物を欲しいのかということ、もう一回皆様で考えたかどうかと思っております。

資料2枚目になりますが、『これからの国際都市交流』という資料では、日本から姉妹都市を結ぶと、様々な形で日本から出て行く部分が多く、双方向の交流になっていないということが書かれています。また、黒部市のまちづくりに関する姉妹都市交流の例も書かれていて、そういったことも、もう一度考えたかどうかと思っております。

実際、以前の市民会議では、府中市の姉妹都市を結ぶ時の経緯というお話もありましたが、海外姉妹都市を結んでいる都市は、約1000都市くらいあるので、その実態がどうな

のか、どういったところが上手くいって、どのような状況なのかを、できれば委員各人が一カ所くらいは調べてもらったらどうかと思います。

その具体的な例として、姉妹都市を提携している 19 か所を、インターネットや新聞記事で集めたものを資料に付けていますので、何かそういう部分で参考になるところがもつとあるのではないかと思います。例えば、提携しても、時間が経つにつれ、交流が途絶えてしまったりするケースもあります。また、我々がまだ想像していないような交流で、上手くいっているようなケースもあります。さらに、交流も一カ所だけではなく、グループで、あるいは連携して交流成果を上げているというケースもいっぱいあります。そういう他の可能性も考えていただいた上で、過去の実績やきっかけのある部分も含めて、検討して行ったらどうかと思っています。

提案としては、そういったことも踏まえて、稲城市民の外国人に対する実態調査やアンケートを実施したらどうかということです。さらに、実際に提携した後の交流の実施体制・組織についても、提携を決める前に考えていた方がいいと思います。ただ、やみくもにやりましたというのではなく、長期的に姉妹都市提携をすることによって、稲城市民も、相手の町も、プラスになるということを、確かめた上で、姉妹都市の提携をした方が良いと思います。

今の段階では、資料 4・5 の今まで検討した内容の情報では、少ないのではないかと思います。

部 会 長：かなり細かいデータの載っている資料をいただきましたが、今これを全部を検討するわけにはいかないと考えています。まず、その実態調査等についても必要があるのかどうかということを議論する必要があります。昨年度 4 回の市民会議で、かなりの部分でこの調査まではいきませんが、委員の皆様からの意見としてはかなりの部分がまとまってきていると思っています。事務局として、このような調査はできるものでしょうか。それとも時間がかかって、なかなか結論が出ない調査なのか、どのようになりますか。

柴 田 課 長：調査の部分につきましては、一定程度時間は必要になると思います。また、稲城市民の外国人に対する実態調査、アンケートの実施については、例えば外国人の変遷傾向、稲城市民の海外ネットワークの調査、内なる国際化に対する調査という部分になりますと、できる部分と、できない部分があると思います。どうしても個人情報の部分があるので、規模をどれくらいに限定するのかにもよりますが、例えば、個別にダイレクトメールを送るとするのは非常に難しい部分があります。そのため、時間は一定程度必要になってくる部分と、調査を大きくかけるには限界の部分があると思います。

部 会 長：調査の対象をどこまで広げるか、市民調査をするのか、特定の枠の中で調査するか、その方法も色々あると思います。昨年度の市民会議の中では、この辺もある程度アンケート等はとったのでしょうか。

柴 田 課 長：昨年 4 回の中ではアンケート等はとっていません。

委 員：皆さんの意見として、出してもらっただけです。実際には難しいということで、詳細の調査をするために作業部会を作ったと私は認識しています。

部 会 長：このままの形で調査を実施して欲しいという意向ではなく、皆様にこういう案件がありますということで、発表されているということでよろしいでしょうか。

委員：もう少し中身が欲しいと思っており、この検討をしないと、上っ面だけの話になってしまうのではないかと思います。

部長：皆様、いかがでしょうか。

委員：昨年度の市民会議を経てきて、やはり、議論を白紙に戻すというのは、現実的に難しいと思います。やはり、1年間の検討を経て、この作業部会を立ち上げた1つの目的は、現実的なところまで方向性を導き出すことと思っています。そのため、資料5の過去の交流実績やきっかけがあるところを叩き台にして、その都市とどこかもっと良い都市があるような、そういう比較とか調査の仕方をした方がいいと思っています。やはり、一年間の会議を無駄にしないためにも、この資料4や資料5の交流実績やきっかけがあるところを、まずは叩き台にした方がいいと思います。

部長：他にご意見はございますか。

委員：前回の会議で、稲城市民の持つ海外ネットワークについて発言しまして、今回、それを受けて事務局に資料3を用意いただきました。稲城市民の、この3年間の海外転出・転入状況及び稲城市に住んでいる外国人の人数など、数値的な資料を出していただき、これはある段階で非常に参考になると思います。しかし、希望を言いますと、市民の参加による姉妹都市を結んでいくということが基本と考えると、もう少し市民の実際の状況を調べた方がいいのではないかと前回発言させていただいたところです。資料を見ますと、海外へ転出した人は、3年間に500人程度いますが、まずアメリカが多くて、これを考えますと、ビジネス関係の出入りの方が多いのではないかと思います。それに付随して、家族で行った方や、その他に別途留学された方なども入っていると思います。この中身をもう少し詳しく知りたいと思います。

転入についても同様です。転出に比べて転入は随分人数は多くなっており、794人と、この3年間の時期は、海外に出ていた人が戻って来る数が多い時期という風にも考えられますし、それとも、日本に戻ってきた方が、稲城市がたまたま住みやすいとか、チャンスが多くて稲城市に入ってきたとも考えられるかもしれません。その辺の状況も含め、稲城市がどのような外との関係をもっているのかということが、この数字からいろいろ類推できるのではないかと思います。そういう実態をもう少し詳しく見るために、どういう方がどんなところに出て行った等、稲城市民が持つ海外ネットワークという調査を、今、叩き台を用意してあるので、私の方から提案させていただきたいと思います。

全市民を対象にやるのは大変なことなので、あまり時間をかけずにやるのがいいと考えて作っていますが、委員の皆様にお配りしたいと思います。

<小山委員の資料配布>

委員：私は稲城国際交流の会のメンバーでもあり、50名くらいの会員の方がいますので、その国際交流の会の方を対象として、小さなスケールでやってみたらどうかと思います。例えば、2枚目以降が調査になりますが、一つ目の質問は、あなたは海外で長期に滞在したことがありますかという調査で、もしある場合には、どういう国で、どういう事由で、どれくらい滞在したかということを知ります。また、あなたに限らず、家族とか親戚とか、そういう方で現地に行っていたり、現地の人と結婚していたり、そういう方の様子を尋ねたいと思います。3つ目の質問では、あなたかご家族などが長期に滞在された都市の名前と、

稲城市と姉妹都市関係を結ぶと良いと考えられる都市について伺い、もしありましたら、その都市名を、推薦する理由等と共に記入してもらいます。特に日本側のキーパーソンとか、先方にそういうキーになるような、自治会関係者、大学・教育関係者、ビジネス関係者等がいるのかという、その辺までつかめればいいと思います。

この結果を集めて、一般市民の方が持っているネットワークを調べれば、この市民会議の委員の皆様が持っている情報と、かなり違うものが出てくるのではないかと思います。

さらに、この調査結果を見て、もう少し調べた方が良いということになれば、さらにもう少し追って調べていくことを提案したいと思い、是非、皆様にご議論いただきたいと思っています。

もう1つ、内なる国際化、海外から来ている人たちについても別のものを用意していますが、今のところは日本から出ている人のネットワークに重きを置いたものを提案させていただきました。

先ほど、委員からいただいた資料を読みましたが、黒部市の例ではまちづくりを小さい都市との交流で実施しています。そういった事を1つのモデルにして、稲城も色々な事を学ぶという、魅力的な提案ではないかと思いました。ただ子供たちを留学に出して、英語を勉強させるというのではなくて、黒部市の例はなかなかヒントをもらえるのではないかと思います。

部会長：このアンケート調査は、国際交流の会のメンバーという特定の人の中で実施するものということでしょうか。

委員：まず、手掛かりとして国際交流の会を対象として実施するのはどうかという提案です。もしできるのであれば、市民会議に参加している各種団体、例えば商工会の中で、こういうものをお持ちの方がいたらやっていただく方法も考えられます。まずやってみて、面白いデータが得られれば、発展させていくのがいいと考えています。

部会長：期間が必要になってきませんが、事務局としてはどうでしょうか。

柴田課長：このご提案ですと、調査を掛ける対象の方、範囲が、すでにご提案委員から声をかけると実施できる範囲の人の中で、限定的になっています。本日の皆様のご議論の流れという部分にもよろうかと思いますが、第2回目の部会の際に、資料5のリストの中に入って来れるようなレベルまで、まとまるのであれば、実施は可能と思います。例えば、アンケートを集計してみて、傾向や具体的な都市が浮かび上がってきたという形であれば、実施は可能かと思っています。

部会長：この部会では、昨年度4回の市民会議の中で検討された物の中から少しずつ絞り込んでいくべきだと思います。そうしないと、去年の冒頭から始めたことを、もう一回この部会で始めるような形になってしまうと自分は思います。

アンケートはアンケートでとっていただくのは結構ですが、昨年度4回で出た市民会議の意見を尊重しながら進めて行くのが、この部会の趣旨ではないかと思っています。限られた時間の中で候補地まで決めていく話になるので、できればこの部会は、少人数でやっているの、結論に向けかなり突っ込んだ中で議論していただきたいと思います。私は思います。

この部会の趣旨からしますと、少しでも先に進みたいというのが趣旨なので、交流事業というのをどこに重きを置いて、交流事業をしたらいいかということから絞り込んでいき

たいとも思いますが、いかがでしょうか。

委員：交流事業の対象についても、まだ他にもあるのではないかと感じています。昨年度、色々な意見があって、資料4にまとめてありますが、ここに書いて無くて重要な物が他にもあるのではないかと思います。昨年度は、大勢の方の中では十分審議できなかつたので、少人数の作業部会で、もう少し突っ込んで検討するのがいいのではないかなと思います。

部会長：他の交流の事業というのは、何か具体的に考えはお持ちですか。

委員：産業だとか、教育、文化、スポーツ、そういったことなのですが、その他に、例えばまちづくりであるとか、色々な形で実際には取り組んでいるケースがあり、それが成果を得ています。稲城としては、何を相手と交渉するというか、売りは何か、そこで稲城としては何が欲しいのかということについては、もう少し、議論をした方が良いのではないかと思います。

他市の交流内容についても、行政に話をすれば、教えてくれます。他市の取組の中には、稲城でも充分使えるという種があるかなと思います。もし、なければ、過去の実績やきっかけのあったところで進めていけばいいですけど、現状では、そういった物が充分審議されていないと思っています。実際にとにかく決めればよいというのではなく、あえてもう少し範囲を広げて、中身については、多少遅れても仕方ないと思います。やはり、将来的に、稲城の市民にとって、海外姉妹都市の提携をやるのがプラスになる中身がいいと思います。

部会長：交流事業をもっと掘り下げたらどうかというご意見ですが、掘り下げると言っても、ご提案委員を含めた中で、教育交流が最も大きな分野になっています。他の交流についても、そこから色々発生するものも出てくると思います。稲城として得策な交流事業だとか、相手方にとってもためになる事業というのは、あくまで相手方がいての話になります。

どうでしょうか皆さん。今一度掘り下げた中で、交流事業をもう一遍考えなければいけないのか、また、ご提案のあったアンケートをきちんと出した上でやるべきなのか、その辺で、振り出しに戻って、この部会をやるべきか、皆様のご意見はいかがでしょう。

委員：交流の中身を初めに議論するのではなくて、提携した後に色々な交流の仕方というのは生まれてくると思います。それでは、相手方はどこなのかという事ですが、今から相手先に意思を確認する作業が発生してくるとなると、非常に時間がかかる話です。ましてや、相手がどう思うかということもあります。実際、例えばフォスターシティ市は、稲城市との姉妹都市提携を、向こうから希望しているという事実があります。そうであれば、じゃあそのフォスターシティ市と交流をするにあたっては、どういう交流ができるかという議論をする方が、現実的な話であると思います。

部会長：フォスターシティ市については、過去に色々な議論があり、昨年4回の市民会議の中では、腫れ物に触らないというのが大分で、来てしまっていました。フォスターシティ市有りの議論ではまずいという風潮が見受けられ、結果的には、もっと大きな中で検討したらどうかという話で、4回の会議が終わってしまいました。私としては、フォスターシティ市が是非、稲城市と姉妹都市提携を結んで欲しいと言っている中で、順序としては、あべこべだったかもしれませんが、市長を始め、稲城市の方が、フォスターシティ市に行かれたこと、また、予算組みなどで、紆余曲折したということですが、そのようなことは、

私は問題視していません。あくまでもフォスターシティ市と実績がある中で、フォスターシティ市との交流をどのような形でしたらいいかということ、この部会で進めて行きたいと思います。これに対して、ご異論があればお願いします。

委員：賛成です。

委員：賛成です。

委員：賛成です。府中市は、検討の段階で候補地を複数絞って、最終的に1つに決めたという経緯も聞いていますので、この資料5に出ている所から、少しずつ絞っていくという考え方もあると思います。

部会長：昨年度の市民会議を踏まえ、資料5の具体的な稲城市との交流のあった場所の中で、皆様からフォスターシティ市で進めたいというお話があるのですが、どうでしょうか。そうになると、フォスターシティ市とどのような交流をしたら良いかという検討に進むこともできると思います。

委員：フォスターシティ市有りきという話でなくてもいいと思いますが、例えば、フォスターシティ市と比較をできるような都市があるのであれば、まして、フォスターシティ市より優れた都市があるのであれば、検討の余地が充分あると思うのですが、現段階の中では、先ほど申し上げた通り、提携を向こうが希望しているという中で、稲城市としてどう対応していくのかということも、問題であると思います。

委員：昨年市民会議の議事録等を読まさせていただいて、感じていたことを、ちょうど今出てきた問題とも絡めて申し上げます。私自身、国際協力という部分で仕事をしてきました。資料4で出ている交流事業の内容を見ますと、非常にジェネラルと言いますか、若い人が大事で、若い人が英語を勉強するために、世界に目を向けるような場を作りたいという、一般的な誰もがOKするような議論が進んできているのですが、少し立場を変えてみますと、もう少しプロフェッショナルと言いますか、例えばエネルギーを効率的に使ってモデルになるような都市はないのであろうか、そういう探していく姿勢があまりないと思いました。稲城が今後、エネルギーをどういう風に考えて行くのか、これはエネルギーだけでなくいいのですが、防災とか、緑とか、いろいろ市が抱えているテーマがあると思います。そういう問題にひとつ足を踏み込んで、稲城市が将来目指す方向に何かモデルとなることを求めて、姉妹都市を探していくというようなアクティブなやり方もあると思います。何か結んで、それから何かできるのか考えるというのとは違うのですが、こちらから積極的に狙いを持って検討するという考え方も大事だと思います。現実を踏まえないといけませんので、昨年の議事録を見て、その辺がちょっと物足りないという気がしました。

部会長：海外姉妹都市とは、1市だけと決まっている訳ではなく、将来的にはいくつでも組むことはできます。フォスターシティ市から投げかけられている部分の結論がまず一番で、その後、二番目としまして、小山委員が仰ったように、色々な産業分野や環境分野など、そういう中で、お互いに協力し合え、教え合える都市があれば、そういうところとも提携することも良いと思います。

委員：こういうプロセスの部分で一番大切なことは、議論するのはいいけれど、完成図が描けていて議論しているのか、分からなくて只議論しているのかということです。完成図が描けていないと、議論が迷走してしまいます。私も昨年の市民会議の議事録を読みましたが、

1年間でこれしか進まないのかと驚いてしまいました。これは船頭が悪いのか、メンバーが悪いのか分かりませんが、やはり今度、「姉妹都市は結ぼう」というコンセンサスを得た訳ですから、それを絶対ブラさないようにするべきです。また、大勢の委員では決められないということで、この部会にしたわけです。ここでまたゼロベースのことをやったら、「またゼロからやるんですか」となってしまいます。そのため、提案される方は、具体的な形まで作って、この会議にぶつけて下さい。「候補地はこうなりますけど、どうですか」ということで、フォスターシティ市とそれをぶつけてもらわないと、議論になりません。

もう一つ、行政にお願いしたいのですが、姉妹都市を結ぶと言った時に、フォスターシティ市と直接にコミュニケーションを取ってください。仮に議論で提携すると決まったとして、向こうがそれを全く知らないというのでは困ります。姉妹都市を結ぶというコンセンサスを得ているならば、役所の中で誰か一人、部長でも課長でも係長でも、あるいは外部であっても囑託であっても、誰でもいいですが、きちんとそういうコミュニケーションをとるようなスタッフを置くべきだと思います。あと、ホームページも日本語だけですか。

武藤部長：翻訳機能が付いています。

委員：要は、そういう対応もして行って、どんどん稲城市を売り込んで行って、市民会議だけではなく、行政としても、やれることをどんどんやっていかないと、時間ばかり経ってしまいます。右往左往して、交流事業はどうしよう、候補地はどうしよう等、議論がぐるぐる回ってしまっていますが、姉妹都市を結ぶというのは橋を架けるようなことだと思いますので、橋さえかければそこは、そこを渡る人はいくらでもいます。橋を架けることに集中してやっていけば、交流事業はそれに付随していきますので、その順番で検討したらいいと思います。

部会長：事務局としていかがですか。

武藤部長：今、私どもは、フォスターシティ市に対しましては、直にコミュニケーションをやっている訳ではなく、在サンフランシスコ総領事館の日本人領事の方を通じて、ネイティブな英語に訳していただき、向こうのキーマンに投げています。

コミュニケーションの部分では、仰る通り、稲城市の市の職員ではスタッフが不足している状態です。ネイティブな英語を喋れる職員はごくごく限られており、こちらがネイティブで作ったものを一回領事館に諮ると、「これでは向こうに通じない」ということで、全然変わってしまうようなことが、これまでのフォスターシティ市との付き合いではよくありました。やはり、今のスタッフ、市の職員の中では、そのレベルに持っていくのはかなり難しいと思うところです。ただ、今言われた通り、スタッフがいないと、どこでやるとしても、基本的に英語はスタンダードになりますので、英語を使える職員は絶対に必要だという認識は持っています。ただ、今のところは、直にやっているチャンネルはないということです。

委員：同等の立場で物が話せる形が理想ですので、原委員のご発言は、すごく良いと思います。英語を通じてのコミュニケーションでは、言葉の解釈が難しく、うちの考えと向こうの考えが違っていることもあると思います。そのため、職員をもっと充実させるような形で、お互いの市が損をしないような交流方法を組み立てるのがいいと思います。

また、フォスターシティ市の方向で行くというのなら、この方向で進めて行っていただ

くのが良いのかなと思います。提案のあった調査の話はすごくいいと思いますが、これから実施するとなると、この1年の中で結論まで持っていけるのかという疑問はあります。確かに稲城の人が、海外のどんな場所に行っていて、もしかしてこういった考えを持った人もいるかもしれないという、次の段階の姉妹都市を選ぶ部分では、この調査は必要になるのではないかと、感じています。

委員：時間の問題を今触れられましたが、私の感じとしましては、実質限られたメンバーの中で調査するのであれば半月もあればできますし、結果をまとめるのも含めて1ヵ月もあれば実質的にはできると思います。しかし、他のサブグループの方でやっていただくようになると、それはまた次ということになるので、現実的に考えなければいけないと思います。

委員：この調査は、すごく大事だと思います。実際に海外に出た人の考えという部分で、是非やって欲しいと思います。

農業の分野の国際交流は、TPPの貿易の問題などがあり、全くできない、ノータッチの状況です。しかし、稲城から知識を勉強させてもらうことはできると思います。例えばアメリカの大規模農業などは、若い人に勉強してもらうのはすごく良いと思います。是非この調査は、この話とは別な立場で、できれば考えていただければと思います。

委員：農業分野を挙げられましたが、ヨーロッパの小さな町で、ドイツの葡萄など、非常に特化した農業をやっている例も、間接的に知っています。そういう果樹的な物を、ヨーロッパの開かれた市場でどうやって生き延びて行くかというのは、非常に参考になると思います。何かそういう具体的なテーマで、一生懸命考える人がいれば、非常に良いチャンスになると思います。全面的な姉妹都市関係を結んで、色々やりましょうというより、むしろ、特定のテーマを持って研修生を送る、先生を呼ぶとか、そういう関係でしたら、まだ姉妹都市まで行かないかもしれないですが、交流としては重要な分野だと思います。

委員：実際、梨の関係でニュージーランドに行ってきたことがあります。栽培方法等を視察しましたが、結局、日本の農業とは全く違う開放的な農業であり、稲城では採算性が合わないものでありました。

委員：新大陸ではなく、ヨーロッパの方には、日本に近いところはたくさんあると思います。

委員：是非、参考に教えていただければと思います。

委員：フォスターシティ市についてはどうなっているのでしょうか。去年に現地に行かれたということですので、町のことを詳しく教えていただきたいと思います。

武藤部長：去年はお話しする場面がありませんでしたが、ちょうど一年くらい前、8月5日から9日にかけて行ってまいりまして、フォスターシティ市に実際にいたのは一日半ということになります。メインで対応していただいたのは、向こうのキーパーソンでありますスティーブ岡本氏という日系の市議会議員の方でありまして、この方と、その日の内に、結構長く意見交換をしました。フォスターシティ市というのは、人口は3万人程度で、サンフランシスコの内海を埋め立てて造った人工都市です。中心にはラグーンと言って、人口の湖があり、サンフランシスコの湾から水を引いて、常に一定の水量を保つようにしてあります。そこではカヤックなど、色々なスポーツができますし、ダフィーボートという数人が乗れる電動で動くボートがあり、そのボートを使って、ラグーンの中を移動して、買い物に行ったりすることができるような仕組みになっています。長崎県のハウステンボスには人口の

運河で作った別荘地があり、そのイメージにかなり近いところです。ラグーン沿いの高級な住宅地と、そうではない普通の住宅地が混在されており、ビザの本社や、タミフルで有名なギリヤードの本社などがありまして、6,000人から7,000人の雇用を生んでいるということでした。人工で作った郊外型の綺麗な都市ということで、稲城市が市制となったときと同じ年に新しくできた都市ということで、非常に共通点があると思っていました。そのために、いわゆるダウンタウンであるとか繁華街というところはなく、非常に安全なまちで、全米でもベスト8に選ばれたくらい安全な町だそうです。

スティーブ岡本市議の話ですと、特に青少年のスポーツの部分に非常に力を入れているということなんです。公園も多くて、市の面積は10キロ平米しかないのですが、そこに公園が20カ所以上あります。一番大きい公園の中には、野球場が9つあり、年齢別の野球場をとっていて、8歳の球場が一番小さく、その次が、11から12歳、次が13から14歳、14から15歳、16歳以上という形であり、球場自体も年齢に応じて大きさが全部異なり、それぞれスタンドやブルペンまで用意されていました。だいたい向こうの男の子は皆さん野球をやり、女の子はサッカーをやるということでした。稲城市も野球のジャイアンツもあり、サッカーのヴェルディあり、日テレベレーザありという中では、その部分の交流もできるのではないかという話もありました。

また、ホームステイ先も、もちろん十分にあるということで、まずは、稲城の子どもたちに来ていただいて、スポーツ交流、特に野球やサッカーで交流がしたいという気持ちがあるということは、スティーブ岡本市議は仰っていました。それから、フォスターシティ市も含め、アメリカの場合、日本の市と交流を行う場合は、だいたい行政が主体ではなく、一般的な法人、NPO法人のような法人を立ち上げて、そちらがしっかり収支を得て、中心となって交流をしていくことになるということです。なお、収支と言っても、向こうは寄附金文化ですので入ってくるのはほとんど寄附金となっています。去年に行ったときは、母体となるNPOを立ち上げる準備に入りましたというところでありました。

翌日ウェルカムのスピーチを市議会議場でしていただいたのですが、そこには、教育長、フォスターシティ市は小さい市なので、隣のサンマテオと同じ学区になっており、そのサンマテオを含めた学区の教育長が来ていました。その方は、フォスターシティ市には小学校3つ、中学校が1つあるので、やはり学校交流ができるのではないかというお話をされていました。また、サッカーの女性のコーチも見えてまして、サッカー交流がしたいという話もしていました。

また、市内にお住いの日本人の方にもお会いして、お話を伺いました。日本人の方は、フォスターシティ市へ家族ごと移ってきて、日系の企業であったり、向こうの企業に勤める人が多いそうです。各小学校には、日本人の子供が10人程度いて、中学校は1校になるため、もっと日本人の子は多いと思いますが、やはり、お付き合いをするのであれば、日本人が間に入るよりは、しっかりネイティブな子と日本人の子たちが交流できるのがいいでしょうと話していました。とにかく、子供達を学校に通わせるにしても、市内に行つて過ごすにしても、すごく安全な場所であつて、住みやすい場所だと仰っていました。

地理的な所を言いますと、サンフランシスコ空港から、ハイウェイですぐ直結しています。サンフランシスコからロサンゼルスまでを結んでいるメインの101というハイウェイ

が通っており、その途中に、サンフランシスコ空港がありまして、そこから乗って、次のインターチェンジで下りれば、そこがフォスターシティ市ということで、10km くらいの距離なのですが、移動時間は 30 分も走らずに到着できました。

今回訪問した際には、フォスターシティ市のシティマネージャーから、公式に今後お付き合いをしていきたいと思いますという文書をいただいております。フォスターシティ市としては、市はあくまでもバックアップをするだけで、交流の主体は市民団体であるということでした。市民団体は、これから 1 年くらい立ち上げるには時間がかかるだろうという話でしたが、今はそれがストップしているというような状態です。それが立ち上がって、しっかり交流できるようになれば、市としても応援していきますというのがフォスターシティ市の考え方です。

部 会 長：今の部長からのお話ですと、相手方がこちらの返事待ちということですので、いずれにしても、フォスターシティ市との姉妹都市提携をするかしないかという議論が必要かと思えます。提携しないのであれば、相手にお断りしないといけないし、提携するのであれば、交流事業を手始めに何をやろうかと、さもないと、他も当たって見てもらいたいという事であれば、当たっていくという形で進めて行きたいと思うのですが、いかがですかね。

委 員：私は結構です。

部 会 長：フォスターシティ市の保留になっているという部分を、この部会の中で議論しながら、きちんと結論付けなきゃいけないと思います。フォスターシティ市のことを議論しながら、また、他の候補もあればそれも考えつつ、この部会としての結論を作り、市民会議の全体会に持っていきたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

委 員：異議と言いましょうか、1 つは、この資料 5 のリストをどういう風に見たらいいのかというのを、議論しておかないといけないと思います。フォスターシティ市については、今、部長のお話もありましたし、向こうからの正式な申し入れが出ているということで、一つアクションが先に進んでいるということなのですが、ただ、それだけであると、上手くいって、皆が納得すればとてもいい訳ですけど、何かまずいことが生じた場合に、他に候補が何も無いということになってしまいます。さらに、このリスト自体が、本当に候補地を検討するベースのリストになるのかという疑問があります。国際交流のグループが 3 つほど関係していますし、あとはアユタヤとモンゴルの留学生が駒澤学園には継続的に来ていて、市の活動に参加してもらったこともあります。資料 5 のモンゴルとの交流は駒澤学園とは関係がないのですか。

委 員：別だと思えます。駒澤学園はウランバートルの大学と交流をしております、毎年交流をしているようです。

委 員：私たちが知っている関係では、モンゴルは駒澤学園を経由しての交流が盛ん行われており、学園祭でゲルを立てたりしているようです。タイ王国も駒澤学園が交流を盛んにされています。そういう事も含めて、また、稲城県については、向こうの状況で、姉妹都市にはあまり積極的ではないというところではありますが、友人学園やフォーキッズについても、これらがそういうもののリストのベースになるかどうかを少し伺いたいと思います。

委 員：教育委員会の情報の中で聞くところによると、友人学園とはかなり活発に交流していたようですが、東日本大震災の関係で、向こうから一方的に連絡を途絶えてきたということで、

原発の関係とか色々あって、向こうから離婚してきた感じのようです。こっちから何回か連絡をとったようですが、向こうから返事が無かったという状況があったと聞いています。いずれにしても、タイ王国とオレゴン州友人学園とは、教育委員会の交流と言っても、学校であったり一部の方々の方々の活動になります。

委員：ポイントは、行政に姉妹都市提携の意思があるかないかということです。意思がないものをいくら議論しても、全く無駄です。その辺のところをしっかりと抑えないと、言っていることは正しいけれど、実現性がないことをやっても時間の無駄になってしまいます。そのため、ご提案者は、それが本当に実現ができるのか、行政の裏がとれるのか、それを調べていただいた上で、ご提案していただきたいと思います。そういうものがない中で、正論を述べられても、我々もそれに対してイエスともノーとも言えません。

委員：資料5のリストは、市の方で交流があるところはないのかということで、調べられたとされていて、基本的には、市はビジョンというか、こういう風にやってもらいたいという考え方を出示してもらうのが一番先決で、稲城としてはどういう形の姉妹都市を目指すかというのを持ってもらい、その中で、じゃあ、フォスターシティ市はどうか、その他で考えられるところはどうか、ということをお願いしたいと思います。資料5は、たまたま交流があったところをリストアップしているものと思います。

議論として、並列的に並べるようなところなのかどうかについては、市の方の意思としてはどうか聞きたいと思います。

武藤部長：市の意思というのは、市民会議で議論していただいた結果が、1つだと思っています。そのため、去年4回の会議の中で、交流の内容であるとか、目的であるとかをご議論いただいてきて、その結果を我々は尊重していきたいところです。従いまして、ビジョンということは、今、市として、このビジョンがあるというのではなく、市民会議で導きだされてきた、大きい流れ、結論がビジョンになってきます。

部会長：いろいろご意見ありますが、結果的に、フォスターシティ市、並びに、他に候補があれば、そこも議題に上げながら検討するという並行しながらの考えの中で話を進めて行けばいいと思います。まずは、向こうに回答しないといけないフォスターシティ市の方をなんらかの結論を出し、もしそこがダメなら、実際これから他をあたって行って、いつ結論が出るか分かりませんが、市長に対する答申はどこまでできるかということもあろうと思います。

そのように、主体的には、現在返事を出さなければいけないフォスターシティ市について結論付けて行きながら、将来的にここはと思いつく市があればそういうところも出していただき、新しい候補となり得るのであれば、その候補地とも、友好関係、姉妹都市関係を結べるのではないかと思います。そのような流れの中で、この部会は進めて行きたいと思いますが、どうでしょうか。

委員：この部会は何回くらいを予定していますか。

武藤部長：全部で3回くらいを考えています。

委員：そうすると、次の時に、フォスターシティ市の現状、どういう考えで、稲城市とどういう形で交流したいのか、そういう意見をフォスターシティ市から出してもらいたいと思います。

- 委員：行政の方で、「今はこうなっています。」ということ、フォスターシティ市に伝え、また、向こうの状況をもらってください。それをベースにしないと、我々が話を進めても、向こうにその気がなくなっていて、「その話はまだ、生きていたのですか。」という話になれば笑い話になってしまいます。なお、コミュニケーションはワンクッションを置いたりすると、そのパイプが切れてしまうので、直でやった方が良いでしょう。英語は下手でも構わないと思います。
- 委員：この方向で行くのであれば、作業部会として、フォスターシティ市の方向で考えるという共通認識は持っておいた方が良いでしょう。過去4回の会議の中で、過去の交流実績とかきっかけという部分で、フォスターシティ市を推すべきところであると考えていますが、これが本当に部会の中で共通認識としてあるのかどうかを確認したいと思います。市民会議の全体会に戻した時に、何故そうなったのかを、きちんと整合性のある形で説明しないといけません。
- 委員：民主主義、多数決でいいのではないのでしょうか。そうでないと、一人が反対だと永遠に決まらない可能性があります。
- 委員：私の理解として、フォスターシティ市について、現実的に進められるかどうかという状況を確認することについては、全く異存はないです。もしフォスターシティ市との話が進むようであれば、進められるところまで進めていただき、その一方で、それ一本ではない方が良いでしょう。こういう市民会議を作った背景には、議会、それからその裏にある市民の考え方がどのくらい反映されているのかが問われていると考えます。少なくとも並行して、私の提案した調査を含めて、少なくとも二本立てで進んで行って、将来、それが一つの形に上手く説明できるようなところに落ちればいいですし、今、他の可能性の検討を全部やめてフォスターシティ市にしましょうというのは、今までの流れではないと思います。
- 委員：具体的な話で上がってこないと検討できないと思います。
- 委員：具体的な話に上げることに力を注いで、準備しないと、上がりません。今は、たまたまフォスターシティ市に行かれて、向こうの反応が少し見えたので進んでいるという事なので、これが本当に、稲城市が、市民の関係として、姉妹都市を結ぶのに適しているのかというのはまだ議論を進めていいと思います。
- これは実務の話だけではないと思います。やはり市民参加の話がある問題だと思います。私は、市民公募という形なので、市民一般の意見をなるべく反映させていただきたいと思って発言しています。
- 委員：趣旨はわかります。
- 委員：ストップしろという話ではないんです。フォスターシティ市については、現状の確認を進めてもらい、その上でその他の候補の検討についても、スケジュール的にどうなっているのかを、こちらでも理解した上で議論しないといけませんし、それに合せて、こちらでもそこに辿り着くまでの可能性をいろいろ探していく作業を急がなければいけないと思います。
- 武藤部長：このアンケートを実施するというのでしょうか。
- 委員：はい。具体的にはそれがありません。それから、今日の議論にはなかったのですが、アジアを中心とした、日本に来ている人たちの実態については、今後、稲城市に来て働く人が今

後ますます増えるでしょうから、やはり経済的な部分で重要だと思います。

武藤部長：そこが一番難しいところで、実態を把握しようとしても、個人情報への壁があります。行政の知り得ている外国人登録のデータというのは、今回のような調査には全く使えず、その方たちに対して直接のメールを送るとかそういうことの実施は難しいと思います。そうになると、例えば、国際交流の会さんがお持ちのチャンネルを使っていただいて、アンケートをすとか、そういう形になろうかと思えます。まずは、内なる国際化ということよりも、外へ向けての国際化を第一歩で進めないと、両方やっていくと時間が足りなくなってしまうと思えます。我々としては、まず外に向けての国際化を進めるにあたっては、補強的なものとして、または、対案として何かあるのかないのか、やはり調べていただけないかということでしたら、国際交流の会さんのチャンネルをまず最優先にして、そこで具体的な別な対案が出せるのかどうかまで調べていただき、次回の会議などで、対案として出していく必要があると考えています。

先ほど、半月程度あれば調査はできるとのことでしたので、事務局としても、集計などはお手伝いできると思えますので、それでやっていただいて、次回の会議のときに対案レベルまでの提案ができるのかどうか、というところは探っていただいてもよろしいのではないかと思います。

委員：仰られているところまで簡単に行けば問題はないのですが、あくまで国際交流の会を対象にやるのは、ひとつのサンプル的な調査であって、これだけでは市民を代表しているとはなりません。例えば、ICカレッジ、そういう人たちは知的に非常に高い人たちが集まっているので、そういう人たちを対象にして、これまでの海外とのつながりについて教えてもらうような方法を工夫することも考えられます。

武藤部長：ICカレッジに参加されている方や、ICカレッジの講師の方だとかに個別に調査をお願いするというのでしょうか。

委員：私はそれが良いと思いき提案をしているのですが、やはり支援していただかないと、少し困るので、是非、市役所とも協力しながらやらせていただきたいと思えます。

武藤部長：ICカレッジ自体は市がやっていますので、そこへの投げかけは可能です。ただ、やるとなると、全面的な調査ではなく、キーとなる方が実際にいるような方に直接お話をする方法が良いと思えます。

委員：やり方については、またお話をさせていただきたいと思えます。

武藤部長：そこは個別に、調査ができる範囲で、なるべくこちらも協力しながらやって行きたいと思えます。ただ、この調査自体を、市民会議としての調査というスタンスでやるのか、国際交流の会さんの団体として調査をされるというスタンスなのか、その辺はどうお考えでしょうか。国際交流の会さんが主体的に調査をされて、事務局は協力してICカレッジにお話をするという形で、調査を個別にする認識でよろしいでしょうか。

委員：それは全く筋が違います。私はここにメンバーとして参加させていただいている立場から提案をしています。国際交流の会が勝手にやっている訳ではありません。この場でご承認いただかないと、実際に調査はやれなくなりますし、ご承認いただいた以上は、市役所の方から、ご協力いただかないと、進められません。私的な調査とは違うということです。

武藤部長：市民会議として調査を実施するかについては、市民会議としてご議論して決めていただき

たいと思います。

部 会 長：本調査については、市民会議のアンケートとして実施するのか、国際交流の会としてアンケートをするのか、ご議論の中で決を採りたいのですが、どうでしょうか。

委 員：提案者が自分で調べて、提案した方が良くと思います。

委 員：私が提案しているのは、個人として提案しているのではなく、この部会のメンバーとして提案していますので、やってもあまり意味がないからというのであれば、取り下げます。

委 員：そういう事を言っているのではなく、提案する人が、自分で調べるなり、協力いただくなりして、結果を提案してくださいということです。市民会議全員でそれをやろうという意味ではないということです。

委 員：調査をやって、結果がこうなりましたということ、小さいスケールでモデル的にやってご報告することは私も提案でやりますが、それを基にして、どこがいいのかまでを、こちらで考えて出すという話ではないと思います。

柴田課長：今のお話は、この部会として、アンケートを実施したらどうかの可否という部分ですので、部会として、この提案のあったアンケートを実施するか、しないのかを決めていただければと思います。

委 員：一つ参考にさせていただく意味でも、アンケートはやっていただいたらいいと思います。

委 員：この作業部会は、具体的な議論をしたいと思っていますので、フォスターシティ市の方向でもっと話をしていけたらと思いますが、一方では、海外ネットワークというものを、知りたいというのにも確かにあります。もう少し考えさせてください。

部 会 長：結論は置いておいて、先ほどから言っている、フォスターシティ市を候補地としてまず絞って行きたいと思いますが、それに関して決をとりたいと思います。フォスターシティ市を候補地として、今後それを考えながら進んで行きたいという方について、挙手をお願いします。

委 員：その前に確認させてください。フォスターシティ市が候補地としてどうなのか、それだけを決めるということになるのか、それ以外も考えて検討に入れるかということの決ですか。

委 員：ひとまず俎上にフォスターシティ市をあげて、一方で、他の候補にできるものがあるのであれば、もう少し具体的な議論もしていくということです。

武藤部長：両方ありき、ただし、フォスターシティ市を選考から外さずということ。

部 会 長：向こうから投げかけられている回答も必要なわけですから。並行して議論するという事です。

武藤部長：こちら、フォスターシティ市については、最新の情報を確認させていただきます。

委 員：フォスターシティ市はそういう形で進め、他の件についても、案があればそこに上げることもできるという事であれば、いいです。

<挙手全員>

部 会 長：そのような形で事務局には動いていただきたいと思います。この1年間で、最終的な結論を出さなければならないので、かなり議論も白熱してきましたが、こういうのはとてもいいことなので、どんどん、意見を出していただきながら、方向付けをしていきたいと思えます。今後とも、ご協力のほどよろしく申し上げます。

【議題2】次回の開催について

部 会 長：それでは、議題の2『次回の開催について』、事務局より説明をお願いします。

井 田 係 長：次回、第2回の作業部会は、1か月程度後の開催を予定しています。今回のご議論の中で出ました内容等について、事務局で資料としてまとめさせていただきますので、その資料を基に、さらにご議論を深めていただければと思います。

<日程調整>

それでは、8月30日（火）夜7時からの開催として予定をさせていただきます。正式な通知は、後日、改めてお送りさせていただきます。なお、ご都合がつかなくなった場合などは、事務局まで、お電話でご連絡をいただければと思います。よろしく願いいたします。

部 会 長：最後に何か連絡やご質問のある方はいらっしゃいますか。

<連絡・質問なし>

部 会 長：それでは、これで第1回稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会を終了いたします。